

道研『学校管理職研修3～学校教育の質を高める働き方改革』

北海道立教育研究所主催の第1回研修が令和6年6月12日に開催されました。約100名の校長・教頭等が参加し、教職員課菅原主幹（働き方改革）から研修のねらい等の説明のほか、妹尾昌俊氏からの講義、グループ毎の意見交換が行われました。

研修のねらい

「働き方改革」を推進するためのアプローチや、学校教育の質を高めることができる組織づくりについて理解を深める。

6/12(水) 遠隔型研修Ⅰ	職場実践	9/19(木) 遠隔型研修Ⅱ
オリエンテーション [9:45～10:00] 講義・協議・演習 「子どもたちと教職員のウェルビーイングを高める働き方改革の推進」 [10:00～15:30] 一般社団法人ライフ&ワーク代表理事 妹尾 昌俊 氏	6月13日(木)～ 9月18日(水)	遠隔型研修Ⅰの振り返り [13:30～13:40] 実践交流・協議 「職場実践の交流」 [13:40～15:10] 北海道教育庁教職員課働き方改革主幹 菅原 伸介 氏 松田 賢治 氏 まとめ 「今後の取組に向けて」 [15:10～15:30]
協議 「職場実践に向けて」 [15:30～16:00] 北海道教育庁教職員課働き方改革主幹 菅原 伸介 氏 松田 賢治 氏 閉会・連絡 [16:00～16:20]	研修成果を踏まえた 自校での実践	取組のさらなる充実 に向けた展望
専門的な知識や 新たな視点の獲得		

校長・教頭等が17グループに分かれて
改革内容を検討し、働き方改革の具体を
推進



学校における働き方改革アクション・プラン(第3期)を踏まえ、各校でウェルビーイングを高める働き方改革を実現

講義・協議・演習

講師 一般社団法人ライフ&ワーク 代表理事 妹尾昌俊氏

子どもたちと教職員のウェルビーイングを高める働き方改革の推進

妹尾氏から

- 生存バイアスに気をつけてほしい。
校長・教頭は、長時間労働の生存者であり、その成功体験を基準にしてはいけない。
- 修学旅行はなんのためにやっている？前提として
いる価値を疑う、立ち戻るダブル・ループ学習を進めていくことが大事。
- 時間外が長くなるほど健康障害のリスクが高まる。
校長は、教職員の命を守ることが大事。
- 教職員のようなアウトプットをする職業には、
インプットが必要。
- 働き方改革＝時短一辺倒ではない。真に大切な
ことにエネルギーと情熱をかけるために、どう時間
を生み出すかが大事。



受講者のリフレクションより

- ・働き方改革は時短ばかりではなく、「やりがい」を大事にした上で進めるべきだと思います。
- ・教頭先生の働き方改革は、誰よりも校長がリーダーシップを発揮して進めなければならないと改めて感じました。
- ・働き方改革を進めるためには、保護者・地域の理解者を増やすことが必要だと改めて思いました。
- ・重視する視点を逆から考えてみることで見えてくるという視座が参考になりました。
「自分事→他人事」になっていないか、協働→学校」で抱え込んでいないかと考えていくと、見えてくるものがありました。

主幹から

「学校のあり方」や「働き方」について、これまで自身に染みついたバイアスをあぶり出し、学び直すことができました。

1日目の講義中4回にわたる意見交流を踏まえ、最後にオープンエンドで次回までの取組を構想する協議を行いました。それを元に、学校経営、学校運営での優先順位を整理・明確化し、自校に関わる全ての人に、自分の言葉で「働き方改革」を語り、学校そのものを変えていく準備が整いました。

この研修を通じて、今年はもとより、次年度の方針など学校経営や運営の見通しを持てるようにできる研修会となっていきそうです。

